

スポーツ・武道実践科学系

氏名

はま だ はつ ゆき
濱 田 初 幸

准教授



主な研究テーマ

- 柔道における競技力向上論・指導法の構築
- 柔道療法の研究・武道国際化における課題と対策
- 体と健康

平成24年度の研究内容とその成果

柔道国際化における課題と対策及び競技力向上・普及発展、指導法の構築に関する研究を行いました。国内および海外から多くの柔道家を受け入れ、柔道指導に関する講義や国際交流を行いました。また、指導者として各国に招聘され、日本の伝統的な基本技術を中心に、応用技術までの指導を行いました。

体と健康、知的障害者を対象とした柔道療法に関する学会発表等を実施し柔道を通して社会貢献活動を行いました。また、武道必修化に向けた指導者講習会、わかりやすい柔道授業を行うための教材作成も試みました（初転君柔道衣およびシート・トライアングルセオリーシート）。

1) 柔道指導・研究調査活動

1. 全日本柔道選手権大会委員、スポーツひのまるキッズ九州小学生柔道大会の講師、大隅地区柔道会理事として活動した。
2. フランス・マルセイユの柔道クラブに招聘され指導した。

3. ヨーロッパ柔道連盟から招聘され、ケンブリッジ・アングリアラスキン大学にて指導した。
4. 「第2回松山城東ライオンズクラブ柔道錬成大会～濱田初幸記念大会」を開催、中学生230名が参加し青少年健全育成活動を行った。
5. フランス柔道連盟に所属するマルセイユ柔道クラブ11名を本学で受け入れ、柔道を通じた国際交流を行った。
6. 鹿屋市立図書館・ふるさと再発見塾に講師として招聘され講演活動を実施した。
7. 愛媛新聞コラム・「道標」に研究活動の一端を執筆した。
8. フランス・マルセイユ・マシリア柔道クラブにゼミ生2名を派遣した。

2) 研究活動

1. 科学研究費補助金の獲得・「前回り受身習得用柔道衣・「初転君」の科学的エビデンスに関する研究」

3) 学術研究論文

1. ヨーロッパ柔道連盟公認指導者資格制度・「The European Judo Coaching Awards Level 4 and 5」の指導を終えて、鹿屋体育大学学術研究紀要, 45, 31-35, 2012.
2. 日本武道代表団の国際交流における普及活動の意義・～2011ドイツ連邦共和国派遣柔道団の活動に着目して～、鹿屋体育大学学術研究紀要, 45, 13-29, 2012.
3. 小学生柔道選手における背負投の打ち込み動作によるトレーニングが大腿四頭筋の最大筋力および筋厚に及ぼす効果、武道学研究, 45, 2, 79-86, 2012 (共)
4. Formation of tetrahydrocurcumin by reduction of curcumin with cultured plant cells of *Marchantia polymorpha* Natural Product Communication, 7, 4, 529-530, 2012 (共).

4) 学会発表

1. 柔道指導者資格制度における日本と欧州柔道連盟の比較、日本武道学会第45回大会, 2012 (共)
2. 武道必修化のための必要条件と教育効果、教員と体育専攻学生の比較 日本武道学会第45回大会, 2012 (共)

これからの研究の展望

柔道初心者に対して、「安全でわかりやすい」柔道指導方法や高度な競技力の向上


に繋がる「効果的なトレーニング、練習方法」を独自の理論で構築、柔道の普及発展に貢献していかなければならないと考えています。特に科学研究費補助金を獲得した、前回り受身学習用柔道衣「初転君」の効能を科学的に検証していきます。(初転君及び初転君シート・トライアングルシートの開発)。

競技者あるいは世界選手権・オリンピックコーチとしての経験から学んだ「勝つ」また「強くなる」といった観点から国際レベルで戦うことができる選手育成を目指した強化のための実践的研究も行っていきます。

地域の柔道会(肝属地区柔道会)と連携を図り、少年を対象にした「級制度」の審査システム、内容に関する共同研究を実施しています。

柔道・武道の発展を鑑み、国際性を身につけたグローバル化社会に貢献し得る人材養成を目指し、国際交流による外国チーム、選手の受け入れや海外派遣を実施していきます。

さらに、生涯学習の視点から「柔道の形」、「知的障害者の柔道指導方法」、「中高一貫教育における武道の推進」に関する研究も着手検討中です。特に、共同研究を進めている「仲野式柔道療法」は、テレビ等で大々的に報道されたことから、知的障害者の自立支援に向けて、科学的データに基づいた検証が求められています。また、さらに健康に関する研究の一環として、スポーツ飲料に含まれている成分の代謝研究から



「有効成分の解明」や「骨強度に関する研究」など生理学的研究も学外機関との連携を図りながら究明していきたいと考えています。これらの活動を通して、大学人として教育、研究への研鑽、社会貢献を図っていきます。